

今年も出穂期は平年並からやや早め 根張りを良くして、活力維持を！

- 7月10日の作柄診断圃の生育は、草丈が平年より短く、茎数が多く、葉数はやや多く、葉色は平年並からやや淡く推移しています。
- 幼穂の发育状況から見た出穂予測は、「平年並からやや早い」と見込まれます。
(近年出穂期の平年が早くなっています。並といっても早い出穂になります。)
- 茎数が多いことから籾数が平年より多くなることが懸念されます。
間断灌水など水管理を徹底して、根張りを良くし、活力を維持して、玄米粒数歩合や千粒重の向上に努めましょう。

1 7月10日現在の生育診断圃の生育状況

品種	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)	幼穂から見た 出穂期の予想 (月日)
はえぬき 酒田市荻島 移植日 5月11日	本年	60.2	706	11.0	37.0	7月31日頃
	前年	70.4	586	10.4	37.0	
	平年	66.0	624	10.8	39.5	
	平年比	91	113	+0.2	-2.5	
つや姫 酒田市漆曽根 移植日 5月12日	本年	59.7	607	11.2	40.7	8月6日頃
	前年	72.0	441	10.4	32.7	
	平年	68.4	487	10.6	38.6	
	平年比	87	125	+0.6	+2.1	
雪若丸 酒田市前川 移植日 5月9日	本年	54.1	673	11.0	38.5	7月30日頃
	前年	65.6	619	11.0	37.3	
	平年	62.0	668	11.0	42.0	
	平年比	87	101	±0.0	-3.5	

※平年は、令和3～7年5か年の平均

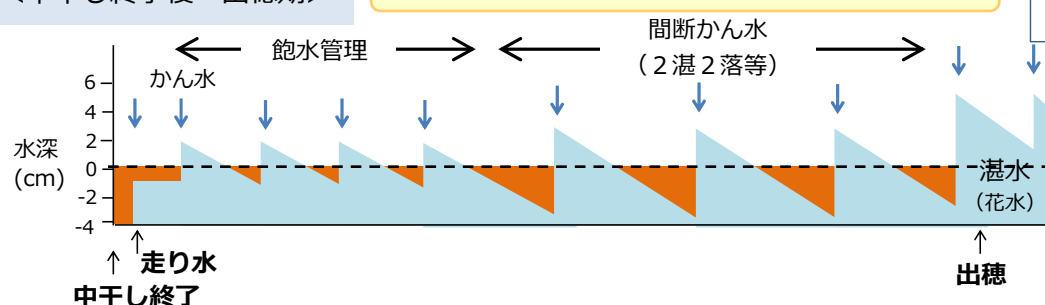
2 根をしっかり張らせ、活力維持で、登熟の向上を！

中干し終了後は、走り水を行い飽水管理（足跡に水がある程度）とし、徐々に2～3日毎に湛水と落水を繰り返す間断かん水に移行し、土壌を酸化的に維持し、しっかり根を張らせながら、根の活力を維持しましょう。水のためっぱなしは、土壌の還元が進んで根へのダメージが大きくなるため、**厳禁**です。

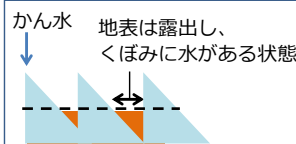
水管理のイメージ

<中干し終了後～出穂期>

間断かん水で、根の伸長が促進されます！



模式図の表記について



根を痛みを防止するため、「水のためっぱなし」はしない。

3 出穂が早いと「刈取適期」も早めに来ます。刈取の準備を計画的に！

- 現在のところ出穂は「平年並からやや早め」と予想されます。
- 登熟期の平均気温が1℃高くなると「刈取適期」は2日程度早まります。また、高温登熟で刈取適期の積算気温が50℃前倒しになると同じように2日程度早まります。
- 気象庁によれば8月の東北地方の平均気温は、「平年並」「高い」の確率がともに40%となっており、平年並から高くなると予想されます。
- 刈取適期が早くなっても対応できるように、計画的に準備を進めましょう
- なお、「やまがた米づくりナビ」の「適期作業カレンダー」にアクセスすると、自分の圃場の「刈取適期」の予想をご覧になることができます。

- 「やまがた米づくりナビ」の「適期作業カレンダー」で、自分の圃場の「品種」「移植日」を入力すると「刈取適期」の予想が閲覧できます。刈取作業を計画するうえで、参考にしてください。



「米づくりナビ」
アクセスはこちら

4 斑点米カメムシ類の発生量が多い！ 畦畔、法面、農道の除草を徹底！

- 斑点米カメムシ類の発生量は平年に比べて多く、7月2日付けで注意報が発表されています。畦畔、法面、農道、休耕田等で雑草が繁茂しているところでは、出穂2週間前頃までに地域全体で草刈り等の除草対策を徹底し、今後の斑点米カメムシ類の増殖を抑制しましょう。
- また、主要な斑点米カメムシ類である「アカスジカスミカメ」はノビエやホタルイ等に産卵して増殖するので、本田の残草対策も万全に行いましょう。

5 葉いもちの発生を確認！ 早期発見・早期防除を徹底！

- 病虫害防除所の調査において、管内の本田でも葉いもちの発生が確認されています。また、先週から“蒸し暑い梅雨”となり、いもち病の感染に好適な気象条件となっています。
- 特に近年いもち病の発生が見られる圃場は、圃場内をよく見回り、早期発見、早期防除を徹底しましょう。

やまがた米づくりナビ（旧称“スマートつや姫”）

7月1日から URL が更新されました。
これまでのURLからはアクセスできません。
新 URL または新 QR コードからのアクセスとブックマークの再登録をお願いします。
新 URL <https://agrilook.jp/yamagata-mob/login>



酒田普及課 LINE タイムリーに情報発信！



STOP！ 農作業事故・熱中症
休憩をこまめにとりながら、水分補給を行いながら、無理のない作業を